

協働のかしわ情報発信チーム：

協働ってなあに？ 活動を聞きに行く（その1）【NPO×保育園/学校】

NPO法人 下田の杜里山フォーラム

昨年12月、酒井根地域の貴重な里山である下田の杜で、生物の環境保全、農作業、土地の歴史等を通しての地域交流や、学習機会の提供など幅広い活動を行っているNOP法人下田の杜里山フォーラムを、下田の杜に訪ねました。

ご案内頂いたのは事務局の廣沢さん。当日は、船橋市にある東邦大学理学部の北田典子先生が教職を目指す大学生に対して「里山講座」を行うために10数名の学生さんたちと共においでになっていました。午前中は、里山の湧水の周囲に自生する外来種（トキワツユクサ）の除去と水生生物の同定などを行い、午後は講義があったそうです。

初めて下田の杜に来るとびっくりされると思いますが、杜の中に居ると、草木が茂り、水が湧き、田んぼがあって、至る所虫や鳥がいて、とても森のすぐ向こう側に住宅地があり車の往来も頻繁な道路があるとは思えません。どんなに貴重な場所か、実感します。

そこには、昭和50年に「下田の杜の自然を守る会」を設立した地権者の斎藤さんの思い、それに応えた地域のみなさんの活動が市を動かした経緯、現在の下田の杜を都市緑地として市から管理業務の一部をNPOが担うに至る、半世紀近い活動の積み重ねがありました。

10日ほど日を置いて、酒井根西小学校で行うNPOの出前授業を拝見しました。5年生対象の「藁リースづくり」（総合的な学習の時間）で、NPO代表の貝山秀明さんほか会員の皆さん20名近くが参加されていました。生徒さんたちは、下田の杜で一年間、田植えから始まり、稲刈り、脱穀も経験してきた最後の授業になるそうです。会員のみなさんの指導を受けながら藁リースを編む、子どもたちの輝く笑顔が印象的でした。

【協働のポイント】

今では、酒井根小、同西小、同東小、酒井根中、麗澤中、地元保育園などにも広がった学校との協働。そのきっかけは、ある熱心な先生がクラブ活動で下田の杜に訪れ、関係がつづく内に野外学習などの授業にも取り入れられるようになった、ということです。その結果、NPOと学校の協働が、どんなに豊かな学びを子どもたちに提供していることでしょう。

また、下田の杜は「生きた博物館」だと言います。しかし、この貴重な里山の保全には課題もあります。市民により広く知ってもらい、より理解してもら

うこと。地権者、柏市とも協働して、杜全体の永続的な保全をめざすこと。
NPO代表・貝山さんの言葉には静かな熱がこもっていました。

